

# 国際コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科 海外研修留学

## 1期生152人が10カ国・地域へ

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では、全員の半期海外研修留学を必須としている。1期生である3年次生152人は、この春から世界各国で学んでいる。行き先は欧州、北米、アジアなど10カ国・地域(渡航制限によりオンライン留学を含む)。このうち、カナダとフランスから留学レポートが届いた。

### 留学レポート

ツールにきたばかりのこと、簡単な会話しかできなかった私たちが、ホストマザーやほかの国からの留学生は、快く受け入れてくれました。はじめは聞かれた質問に答えるのが精いっぱいでしたが、このままではいけないと思い、事前に準備するようにしました。また、学校では留学生の出身国の文化、政治や法律について話し合うことが多く、負けじと発言している



週末の公園で現地の子どもたちとバスケットを楽しむ。A bientot!

### フランス

## Bonjour, Tours!

鈴木美香 牧野洋奈



港町サンマロで。留学生仲間とともに(右から鈴木さん、牧野さん、高橋優花さん)

週末は美術館やロワール川沿いの由緒ある城を訪ねたり、小さいけれどオペラハウスでオーケストラのコンサートを聴いたりして、思い思いに過ごしています。また学校の遠足では、モンサンミッシェルへ行ってきました。

生活の中では、パンやチーズなどフランスならではの食文化を、毎日のように体験しています。フランスの文化に直接触れることで、留学がもっと充実したものとなっていると実感しています。

ツールは私たちにとってのホームタウンになり、週末の外から戻るときは「ただいま、ツール」と言っています。残りの留学期間をもっと充実したものにしよう、気を付けながら過ごしたいです。

### カナダ

## 温かい場所 ビクトリア

山口 美月



観光名所Legislative Assembly(州議事堂)の前で、専大からの留学生ら(後列)と一緒に。手前右端が山口さん

最初は自分の英語力で通じるのか不安でしたが、継続することで次第に自信が湧き、学校以外でも道で会った人に話しかけ、スモールトークをすることもできるようになりました。ホストファミリーとも、食事中や寝る前などに積極的に会話して、とても充実した日々を過ごしています。

私が留学しているカナダのビクトリアは、想像していたよりもはるかに温かい場所でした。この留学を始めて、私は何事もトライする勇氣を持つことができるようになった。

私も一緒に参加しています。大学のセンターでは、現地のボランティアと会話することができ、毎日利用しています。またそれ以外でも、大学のスタッフに積極的に話しかけるなどして、現地の方々と会話をする機会をできるだけ多く持つようになっています。

今後の連携について意見を交わした根岸教授(右から4人目)ら本学教員と、アリアガ主席公使(同3人目)ら大使館職員



### 3教員がメキシコ大使館訪問

千代田区と区内の大学が連携し、区に関するさまざまな事象を一つひとつの学問として学ぶ2022年度「千代田区」国際コミュニケーション学部の根岸徹郎教授、井上幸孝国際コミュニケーション学部教授、小林貴徳同准教授がメキシコ大使館を訪問。事業の趣旨を説明し、協力を依頼した。

「文化的多様性を持つ千代田区」の国際性に関する調査・研究の大使館を訪問し、千代田区とメキシコ大使館との関係について、調査は学生が主体となり行う。

「新しい声を聞く」河野真太郎著。本書は男性運動、男性学、男性性研究のこれまでの踏まえつつ、男性性

### 22年度千代田学探採の研究事業が始動

外国語の又又又 外国語教育研究室

### 英語の話し言葉と書き言葉について

英語の読み書きには慣れてきたのに、うまく話せない。日常会話でよく使う表現が出てこない。ようやく考えて出た表現も、教科書の例文のように堅苦しい感じがする。どうしたら話し言葉がうまく使えるようになるのだろうか。このような悩みをよく耳にします。

### 専修人の新しい本

政治学者、PTA会長になる 岡田憲治著